

周恩来

A black and white portrait of Zhou Enlai, a young man with dark hair, wearing a light blue high-collared shirt. The portrait is set against a dark background and is framed by a red border. The text '周恩来' is written in large, bold, red characters across the bottom of the portrait.

周恩来

青少年論說集

中國共產黨中央文獻研究室
第二編集部、天津南開中學 編

新世界出版社



周恩来

青少年論說集

中国共産党中央文献研究室 | 編
第二編集部 天津南開中学

 新世界出版社

图书在版编目(CIP)数据

周恩来青少年论说文集：日文 / 中共中央文献研究室第二编研部，
天津南开中学编；王敏译．— 北京：新世界出版社，2015.6

ISBN 978-7-5104-5341-0

I. ①周… II. ①中… ②天… ③王… III. ①周恩来(1898～1976)－文集－日文
IV. ①D2-0

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2015) 第 104228 号

周恩来青少年論説集

作 者：周恩来

编 者：中共中央文献研究室第二编研部 天津南开中学

翻 译：王 敏

责任编辑：乔天碧 李淑娟

日文审定：好竹雅子

装帧设计：北京维诺传媒文化有限公司

版式设计：清鑫工作室

责任印制：李一鸣 黄厚清

出版发行：新世界出版社

社 址：北京西城区百万庄大街 24 号 (100037)

发 行 部：(010) 6899 5968 (010) 6899 8705 (传真)

总 编 室：(010) 6899 5424 (010) 6832 6679 (传真)

<http://www.nwp.cn>

<http://www.newworld-press.com>

版 权 部：+8610 6899 6306

版权部电子信箱：frank@nwp.com.cn

印 刷：北京京华虎彩印刷有限公司

经 销：新华书店

开 本：787×1092 1/16

字 数：100 千字 印 张：11

版 次：2015 年 6 月第 1 版 2015 年 6 月北京第 1 次印刷

书 号：ISBN 978-7-5104-5341-0

定 价：98.00 元

版权所有，侵权必究

凡购本社图书，如有缺页、倒页、脱页等印装错误，可随时退换。

客服电话：(010)6899 8638

序一

趙啓正

2013年の年初、私は母校、南開中学が北京の釣魚台国賓館で開催した『周恩来南開中学作文箋評』の発売記者発表会に参加した。その時すぐに日本語版も出版されるべきだと思った。そして今、『周恩来青少年論説集』が間もなく上梓される。この対をなす二冊が相次いで世に出ることは、南開中学の傑出した校友である周恩来総理に対するこの上ない思慕の表れであると同時に、その精神や進歩的思想文化を普及させる積極的な貢献でもある。

私は南開中学の1958年度卒業生である。「允公允能、日新月异」¹という南開精神は私に深い影響を与え、人生の成長過程において私を力強く後押してきた。私は以前南開中学の教師や生徒と交流した時に、次のような話をしたことがある。南開精神の具現像は周恩来総理である。「南開精神のDNA」は周恩来の身に反映されており、青年時代の周恩来が辿った成長の足取りは南開中学卒業生や在校生にとって貴重な財産である、と。周恩来は南開中学から革命の道を歩み始めた。南開中学時代は青年周恩来にとって重要な成長段階であり、そこで受けた教育も周恩来の偉大なる生涯に深い影響を与えた。従って、中学高校時代における周恩来の成長過程と思想の軌跡を深く掘り下げることは、我々が周恩来という偉人と南開精神をより一層理解し、教育の力をより全面的に捉えること

¹「允公允能、日新月异」というのは南開中学及びその後の南開大学の校訓と教育理念。公德と能力両方を重視し、日ごと月ごとに、たえず進歩すること。

に役立つだろう。

周恩来総理は中国人民に深く敬愛されており、国際的にも高い声望を有している。彼は南開中学だけではなく、中国の、そして世界の周恩来でもある。周恩来は傑出した中国人代表であり、中華民族がもつ温厚で寛大、義を重んじ忠誠心にあふれ、たゆまず努力し、正直で清らかな心を持ち、虚心坦懐であるなどの気質が彼の身に体现されている。少年時代から「天下の興亡、匹夫責あり」¹という伝統的美徳を受け継ぎ、その生涯を通じて中国精神とは何か、中華文化の真髄とは何かを伝えた。積極的に中華文化を世界へ広めようとしている今日においては、より十分かつ全面的に周恩来総理の思想という財産を掘り起こして伝え、この偉大な中国指導者の成長の過程を理解することを通じて、今まで以上に中国及び中国人を認識してもらうことが必要である。

この論説集は周恩来が南開中学在学中に記した文語体の文章を日本語に訳したもので、国内外の読者の読解と理解の助けになり、とりわけ若い世代が周恩来を身近に感じ、周恩来から学ぶ上で助けになるだろう。本書では、青年時代の周恩来が愛国、時事・政治、名誉、志向、教育、演劇、勤勉、協力体制、学業、友情などについて論じた文章を読むことができ、青年周恩来の独特な視点、優れた才能、同年代を超えた成熟さが存分に表現されている。本書は有名な『ベーコン論説集』²と同じように、読者に深遠なる思想と知恵に対する理解をもたらすとともに、時代の変遷に対する理解や人生への啓示を与えるに違いない。もちろん、本書が『ベーコン論説集』のように時を超え、そして世界中に熟知され、世界が中国を理解するための新たな窓口になることを願っている。また

¹ 明末清初の儒学者である顧炎武（こ えんぶ 1613～1682）の名言。天下の興亡については国民の一人一人に責任がある。

² フランシス・ベーコン（1561～1626）の『The Essays of Francis Bacon』の中国訳、また日本語訳には『ベーコン随想集』（渡辺義雄訳、岩波書店、1983年）がある。

日英以外の外国語版も早く出版されることを期待している。

南開中学の国語教育は長い伝統を持っている。初期には、王崑崙¹、老舍²、範文瀾³、何其芳⁴などの宿将が教鞭を取ったことがあるほかに、曹禺⁵、周汝昌⁶、黄裳⁷なども在籍していた。母校である南開中学の先生方が授業の激務をこなすかたわら、強い使命感を以て、この正確で、読みやすく、信頼するに足る新たな書籍を編纂してくださったことに、感謝の意を表する。本書は必ずや多くの読者を魅了することだろう。

(序一の作者は元中国共産党上海市委員会常務委員、上海市副市長、
国務院新聞弁公室主任、中国人民政治協商会議全国委員会常務委員会委員、全国政協外事委員会主任)

¹ 王崑崙（おう こんろん 1902～1985）、政治家、『紅樓夢』研究者、詩人。

² 老舍（ろう しゃ 1899～1966）、小説家、劇作家。本名は舒慶春、字は舍予。代表作に小説『駱駝祥子』『四世同堂』、戯曲『龍鬚溝』『茶館』などがある。

³ 範文瀾（はん ぶんらん 1893～1969）、歴史学者。著作に『中国通史』などがある。

⁴ 何其芳（か きほう 1912～1977）、詩人、文芸評論家。著作に詩集『予言』『暗夜の歌と白日の歌』、文芸論『現実主義について』などがある。

⁵ 曹禺（そう ぐう 1910～1996）、劇作家。代表作の『雷雨』は中国近代劇史上画期的な作品。

⁶ 周汝昌（しゅう じょしょう 1918～2012）、『紅樓夢』研究の第一人者。

⁷ 黄裳（こう しょう 1919～2012）、散文家、記者。本名は容鼎昌。

序二

孫海麟

周恩来は1913年8月に天津南開中学に入学し、1917年6月に卒業した。当時の私立南開中学堂は「国難のゆえに誕生し」、「中学の模範となる」ことを学校経営の目標として掲げていた。幼少期より家庭及び私塾で教育を受け、東北地方で小学校教育を数年受けた周恩来は、南開中学での四年間の厳格且つ系統的な学習と訓練育成を経て、遠大な志をもち、国家や人民のために心を砕き、刻苦研鑽し、勉学に励み、健全な肉体をもち、学業を敬重し友と和合し（敬業樂群¹）、思想的鋭気に満ち、人格的にも優れ、成績優秀な生徒に成長したのである。南開の父と呼ばれる嚴修²先生は周恩来を「宰相の才」をもつと評価し、校長の張伯苓³先生は「南開開校以来最も優秀な生徒」と称賛した。周恩来は一生「国事に携わり」、「中流の砥柱になり」、戦場を駆け巡り、幾度もの戦役を経験し、中華人民共和国の総理を26年も務め、その死の時まで献身的に力を尽くし、億万の人民に敬愛されるよき総理となった。そのためのしつかりとした知識と能力、豊かな人生経験の土台は、南開中学時代に作り上げられたのである。

2013年8月19日は周恩来南開中学入学100周年の記念日である。その半

¹ 敬業樂群、「2、本会成立時の宣言」にあるが、周恩来が友人たちと創った会の名前である。彼らによる造語である。

² 嚴修（げんしゅう 1860～1929）、清末民初の教育家。字は範孫。南開中学及びその後の南開大学の創設者の一人。

³ 張伯苓（ちょうはくれい 1876～1951）、中華民国の教育家、政治家。名は寿春だが、字の伯苓がよく知られている。南開大学の創設者の一人で、かつて中華民国政府考試院院長もつとめた。

年前の2013年2月に、中央文献研究室第二編集部と天津南開中学が注釈と解説を加えた『周恩来南開中学作文箋評』（以下は『作文箋評』）が人民出版社から出版された。同書は当時の教師の講評が付された作文52篇を収録し、さらに現代中国語の注釈と解説を加えたもので、周恩来の中学高校時代に関する研究の空白を埋めた。さらに手書き、文語体、繁体字で記されていた文章を今日の簡体字中国語で表記することによって、現在の青少年及び多くの一般読者との距離を縮めた。

先ごろ、天津南開中学の教師と校友は中央文献研究室第二編集部とともに、周恩来が授業の余暇を利用して南開中学の校内新聞や雑誌に投稿した文章を収集・整理し、そのうえで注釈と解説を付け加え、さまざまなスタイルの文章計60編を収録した『周恩来南開中学習作釈評』（以下は『習作釈評』）という本にまとめた。同書は、当時の南開中学における総合教育の成果を反映しているのみならず、周恩来の人生への志向、道德修養、趣味や好み、文学面の才能をも反映している。『作文箋評』と『習作釈評』はともに周恩来の南開中学における四年間の勉学生活を反映した姉妹篇となっている。これらに収められた授業での課題作文と余暇を使って書かれた習作計112篇は、多様な側面と角度から、周恩来の四年間の勉学生活における立志、修身、交友関係、身体の鍛錬など基本となる柱とその成長過程を生き生きと描き出している。

中国の青少年、また世界の青少年、そして周恩来総理を敬愛する人々が周恩来を理解でき、身近に感じられることを目的として、中央文献研究室第二編集部と南開中学が共同で編纂した『周恩来南開中学論説集』

（以下は『論説集』）が人民出版社から出版された。我々はこの『論説集』から39篇の文章をさらに精選し、日本語版の『周恩来青少年論説集』にまとめた。本書は内容の思想性が高く、見解が深く、ロジックがきめ細かく、周恩来の心の声を伝えている。一層交流を深め、21世紀の青少年と多くの読者にも一世紀前の中国における一人の傑出した青年の

■ 周恩来青少年論説集

創作習慣や内なる思索を知ってもらうために、本書ではまず日本語訳の文章を配置し、各文章の後に簡単な解説を適宜付け加えた。これにより、今日の国内外の読者が若き周恩来に対する理解と敬愛をより一層深められると考えている。

『周恩来青少年論説集』は『作文箋評』、『習作釈評』とともに、周恩来の中学高校時代の文章を集めた三冊のシリーズ作品を構成しており、完全且つ系統的に周恩来の南開中学における四年間の勉学生活を反映している。また多様な側面と角度から、祖国を愛し、中華民族に忠誠を尽くし、「国を愛し組織を愛する公德」を守り、「社会に奉仕する能力」を養い、学業を敬重し友と和合し（敬業楽群）、教師や目上の人を尊敬し、人格が健全で、人品が高く、堂々とした高貴な中国人の光り輝くイメージを映し出している。

周恩来の天津南開中学入学100周年の記念として、ここに謹んで本書を発行するものである。

（序二の作者は天津南開中学理事会理事長、党委員会書記）

目 次

序一	1
序二	4
1、中華民國三年一月始業式に思う	1
2、本会設立時の宣言	4
3、一生の計は勤勉にあり	6
4、春の郊外旅行記	9
5、愛国団結先決論	11
6、射陽の旧事を偲ぶ	13
7、人生で最も貴重なものは光陰のほかなし	21
8、名誉を論ず	24
9、志を尚（たか）くするを論ず	27
10、天津救国貯金団第二回会議での演説	30
11、『校風』紙創刊の経緯	33
12、学習の進境についての友人への返信	36
13、開校十一周年記念新劇『一圓錢』について記す	42
14、孟子は利を論じず、アダム・スミスは利を論じるを好む。 この二説の折衷案とは	47
15、海軍説	51
16、「或いは難多くして以て邦国を固くする」を論ず	54
17、陳勝滅秦を論ず	59
18、首陽山で餓死した伯夷と叔斉を論ず	63
19、新聞の利点を説く	66
20、国民は高尚な思想を持つべし	69
21、共和制とは人皆人を治め、人皆人に治められるものであることを論ず	72
22、冬休み中の行いを述べてみる	75
23、管理教育の無益を論ず	81
24、譲歩を主張する老子と競争を主張するハクスリー、どちらが正しいか	84

25、誠意は万物を感化することを能うを論ず	90
26、自治と自愛で友人を励ます手紙.....	95
27、我が校の新劇に対する見解.....	98
28、中国における現状の危機.....	109
29、私の人格観.....	116
30、本学新劇公演『わずかな心得の差』観劇後の感想.....	123
31、贅沢は習慣か本性か、二説を論じてみる	128
32、「孫陽馬を知る」に対する駁義.....	135
33、項羽とナポレオンの優劣を論ず.....	137
34、杜牧の『阿房宮賦』を読んで	145
35、『教育要旨』第六条「貪婪を戒める」を読んで	149
36、治心論	153
37、旧正月休暇に何をしたいか.....	157
38、科学の毒.....	160
39、『南開中学十期生二組卒業同級生録』序文二.....	162

1、 中華民國三年一月始業式に思う

(一九一四年二月下旬)

五色の旗¹が空高く翻り、オルガンが高く低く周囲に響く。教師も生徒もにこやかな顔で講堂に集まり、盛大で厳かな始業式が行われている。校長先生が訓辞を述べ、教師が演説をし、生徒が喜びの歌で祝い、学校が未来永劫発展していくことを祈っている。国家と艱難を共にし、中高等教育を率い、多方面で活躍する人材を育てる。そんな学校はどこなのか。それはまさにこの中華民國三年一月八日、この瞬間に始業式を行っている天津南開中学にほかならない。私は南開中学という大樹の蔭の心地よさを味わっていた。何か言わずにはいられなかったが、ただ美辞麗句で飾りたてることはしたくなかった。大志を抱いてはいたけれども、ただ他の同級生と同じように、心中ひそかに感慨に浸っていたのである。

南開中学は創立された当初から私立の学校であった。当初は四、五十人の生徒だけだったが、現在では四、五百人にまで増え、すでに四期目の卒業生もあり、人材も輩出している。学校創立以来すでに九年が経ち、その間には多くの困難を経験し、多くの挫折もあったが、不屈の精神で、それに屈することなく、ついに北洋（河北・山東・遼寧各省の沿海地方）に名が知られる名門校となった。天下の学徒たちが書籍を背負い千里を遠しとせず、学問を探求しにやって来て、次々と人材を輩出

¹ 中華民國の初期に使用されていた国旗。赤、黄、青、白、黒の五つの色に構成されている。

し、多くの人材が一堂に会し、南開という大きな鍛錬の場で鍛えられ、成長している。隆盛を極めているといえよう。我が校の理事長（嚴修）と校長（張伯苓）は教育に対して熱心で不撓不屈であり、また諸先生方が生徒に懇々と教え諭し、一步一步教え導いてこられたからこそ、今日の隆盛に至ったのである。そうである以上、これから先長きにわたって堅持していくのは決して容易なことではない。財政、教育研究、規則、学習習慣、文化体育活動などの面において、いかにして財源開拓と支出削減、改革、規則執行、たゆまぬ努力と発展に取り組むかが、校長及び各要職者に対する要望であり、また我々生徒が互いに励まし合うべきことでもある。我々への評価はすでに過去のものであり、将来やるべきことは非常に多い。もし古い殻に閉じこもり進取の精神がなければ、これまでの努力はむだになり、何一つ誇れることがなくなってしまう。前に一步進むのは極めて困難ではあるが、進まなければ後戻りすることになる。我が校はまさにこういう正念場にきている。ましてや、我々は現在競争の時代に立ち、我が校も過度期に入っており、わずかの油断でも衰微を招く。一方、皆で力を合わせて努力すれば、勝ちを制することができる。しかし、月満つれば則ち虧く、である。学校の未来に対して我々は真剣に考えなければいけない。校長や諸先生方及び生徒全員が粘り強い気力で、壮大なる理想を堅持し、学校の優れた伝統を守り、未来の事業を拓き、勤勉に学習し、徳を養い、体を鍛え、上も下も心を一つにして協力すれば、我が校を家庭と学校の楽園にするのも難しくないだろう。

南開中学は一人、二人だけの学校ではなく、南開の全ての人の学校である。学校が南開の全ての人のものであるならば、なおのこと皆で支えて守り、衰退させるわけにはいかない。もし盲目的に尊大になり、非凡であるとうぬぼれ、すでに功なり名を遂げたのだから皆で守らなくてもいいと思いこむならば、教育者としての主旨も失われる。それは今日の

式典の本意でもない。私が述べているのはあくまで校長や先生及び生徒たちがすでに考えていたものに過ぎない。しかしながら、愚鈍な人でも熟慮すれば何か得ることがあり¹、聖人でも浅薄な言葉を用いることもある。私は学校の一員として、何の理由もなく感慨をもらしているわけではない。愚昧を顧みず、優れた方々のご教示を仰ぐ次第である。

【解説】

1914年は南開中学創立十周年の年であり、盛大な始業式は少年時代の周恩来に無限の感慨を覚えさせた。作者は強烈な憂患意識を持ち、功績をむやみに持ち上げる決まり文句を用いず、話題を一転させて「月満つれば則ち虧く」という考えを提起した。安きに居りて危うきを思うという主題に、深く考えさせられる。

¹ 「智者も千慮に一失あり」の対句である。

2、本会設立時の宣言

(一九一四年三月十四日)

青年はこの世界の未来の主役であり、学門をする者は新しい思想を打ち出すリーダーである。ましてや伝統的な学説が減び、国勢が傾いている国に生きる我々学生が背負っている責任は、より一層重大ではなかろうか。全力を尽くしてこのような重大なる責任を負おうとするのなら、学生時代において、全力で体を鍛えること、教養を高めること、知恵と能力を伸ばすこと以外に、何を追求すべきなのか。幸運にして我々は南開中学に入学することができた。これほど良い学校教育を受けられるのは、意にかなったことだといえよう。しかし学校の授業は一般課程に限られており、一意専心に能力を伸ばそうと努力している学生にとって、思想の狭さと見識の浅さの問題から、単独での学習では満足に進まないことが多い。従って、自分自身の徳を養い、見聞を広め、能力を伸ばしたいならば、まずチームを組むべきである。ましてや、実用的な知識を蓄えることと才能を発揮することは、方向は同じだが実際には別物である。学問をすることと自ら実践することを、ここでは同時に修得しなければならない。物事の道理を認識することと実際にその道理を実践することは、切り離せない一つの緊密な総体であるというのが、我が南開中学独自の教育理念である。生徒どうしが互いに敬愛し親密になることは、それにもまして我が校の伝統的なよき校風でもあり、生徒どうしでつくる各種団体が我が校で盛んな理由でもある。また、団体も人と同じように、互いに交流して磨き合い、競い合うことで初めて発展できる。

我々はこのような目的で「敬業楽群会」を設立した。さあ、志と信念を我らと同じくする諸君、すぐ来たれ！

【解説】

「本会」とは「敬業楽群会¹」のことを指しており、16歳の周恩来が張瑞峰、常策欧らと1914年3月に結成した南開中学の生徒による団体である。この宣言において、周恩来らは発起者として「敬業楽群会」を設立する目的と意義を示し、その目的を実現する方法と筋道を明らかにしている。

¹ 周恩来が学校で創った会の名前である。

3、一生の計は勤勉にあり

(一九一四年春)

生涯の計画を立てるとするなら、学習なしには進まない。学習をしていても勤勉でなければ、学びを尊ぶことができようか。従って、学問を探究することにおいて、大切なのは勤勉である。勤勉であれば、一生の計も実現できるであろう。さらに、人々が皆勤勉であれば、一国の大事業も成し遂げられよう。人の生涯において、知識を学ぶ上で青年時代に費やす時間が最も長い。基礎は学習で築かれ、発展し開かれた思想も学習から生まれる。勤勉でなければ学習を支える方法が失われる。(もし勤勉でなければ、) 良い結果を得られるはずもなかろう。また、成人になって、社会や国のために働くには、勤勉さによって国の中軸になり、勤勉さによって博学多識の人間にならないといけない。そうして初めて学んだ知識の全てを活かして社会に奉仕することができ、その志をもってその身を社会に捧げることができる。また事業を興すならば、一心不乱にするべきであり、弊害を除くならば、終始一貫にするべきだ。そのように行えば、事業は成功し、偉業も達成でき、一生の計も必ず実現できる。そして家と国家への貢献もそれについてくるであろう。

さもなければ、学習に対して努力が長続きせず、やることに對して竜頭蛇尾になりかねない。また初めのころは勤勉だが、終わるころにはなおざりになる。あるいは、初めのころは勢いづいているが、終わるころになると初めの心意気の気配もなくなってしまう。それは怖気づいて